

平成23年度 笠間市表彰

《受賞者・功績》

3月22日、平成23年度笠間市表彰式が笠間市役所本所で行われました。これは、市政の発展に著しい功績があった方々を表彰するもので、行政、経済、文化、社会などの各分野で多大な貢献をされた次の4名および2団体が受賞されました。

菅谷 輝夫さん(福原)

長年にわたり、保護司として更生保護活動に従事し地域福祉の増進に貢献されました。

坪井 敬二さん(箱田)

長年にわたり、人権擁護委員として人権に関する相談や街頭啓発活動を行い、人権尊重思想の普及高揚に貢献されました。

中林 慶さん(押辺)

長年にわたり、統計調査員として各種統計調査の円滑な実施・普及発展に貢献されました。

故 福田實さん(下市毛)

笠間焼窯元として巨大花瓶の制作や「笠間の陶炎祭」初代実行委員長を務めるなど笠間焼のPR、発展に貢献されました。

笠間市民憲章推進協議会

(会長 山口 滋雄さん)

平成19年の設立から、実践活動を通して市民に笠間市民憲章の浸透を図ってきました。また、平成23年11月には全国大会笠間大会を開催しました。

友部リトルシニア

(代表 塩田 義清さん)

東アジアの中学生を対象とした硬式野球の国際大会である第1回東アジアリトルシニア野球宮崎大会で優勝するなど、スポーツの発展向上に貢献されました。



今回表彰された皆さん

笠間の歴史探訪5

里見氏の小原城本丸跡

小原城跡は、友部駅から北東に約二キロメートル、小原地区のほぼ中央のわずかに突き出した小台地に位置しています。道路脇に、「小原館・古宿」の地名表示があり、このあたりが小原城の本丸跡です。

現在、本丸跡は一部、稲荷神社の境内になっています。宝暦十三年(一七六三)に、御城稲荷神社が祀られました。神社の南側には、館古宿公民館が建てられ、広場も造られて地域の人たちの憩いの場になっています。

小原城本丸跡は、昭和五十七年に友部町文化財に指定され、現在市指定文化財(史跡)です。

本丸の土塁は、稲荷神社の社殿の北側および東側にL字型に残っています。土塁の外側に水堀の遺構がありましたが、平成三年に環境整備上埋め立てられ、平らな土地になりました。

本丸の更に外側に、土塁と堀割の一部が残っており、館・古宿・精進場・搦・本内・久保宿などの地名を残しています。

小原城の歴史は、永享元年(一四二九)に手綱郷(現高萩市)の地頭里見家基が、依上城(現大子町)攻めの功により、鎌倉公方足利持氏より那珂西郡(小原を含

む)の地を与えられ、弟の満致(俊)を小原に置いてこの地を治めさせました。

里見氏が小原の地に入った当初の館は明らかではありません。「住吉山廣慶寺縁起」(曹洞宗)によると、文亀二年(一五〇二)に同寺は小原城主里見義俊を開基として創建されたとあります。このことから、遅くとも十五世紀末には、現在地に小原城が築かれたと考えられます。

里見氏は、戦国末期の天正年間(一五七三〜九二)に佐竹氏に敗れて、城も廃城となりました。

本丸跡にある「小原城推定図」を頼りに、現存する土塁や堀跡を確認したり、寺や神社を訪ねてみたりすると、小原の里の歴史を肌で感じることでしよう。

(市史研究員 幾浦 忠男)



小原城本丸土塁と水堀跡